

## ある日本軍「慰安婦」の回想・出版記念の集い・京都の記録(復刻)

ネリア・サンチョは、1992年にラジオを通じてフィリピン人「慰安婦」だった女性たちに呼びかけ、それに応じてマリア・ロサ・L・ヘンソンさん(ロラ・ロサ)がフィリピンで初めてのカムアウトをした。そして同じ年の12月にロラ・ロサとネリア、インダイ・サホルの3名が日本を訪れて、12日に京都の集いが開催された。収録した写真には、京都の集いで証言するロラ・ロサの隣で明るい笑顔のネリアが写っている。あわせて、同じ日に自立労働組合連合(ALUI)婦人部が、ロラ・ロサの初来日に連帯して持った労組事務所での交流会の写真も収録した。

この時に藤目ゆきがロラ・ロサに自伝を書くことを勧め、3年の執筆期間を挟んで『ある日本軍「慰安婦」の回想 フィリピンの現代史を生きて』(藤目ゆき訳、岩波書店、1995.12)が出版された。出版記念のために1996年1月に再び来日したロラ・ロサ、ネリア、インダイとともに京都で開催された出版記念の集いの記録を、ここにそのまま復刻して収録する。手作りの冊子で、写真も鮮明ではないが、この出版の経過と意義について、ロラ・ロサの話、藤目ゆきの報告とともに、ネリアの発言も収録されている。

この小冊子の発行人は「ロラ・ロサ絵画展企画準備会」である。ロラ・ロサが自伝を執筆しながら描いた数多くの絵を、訳者である藤目とともにALUI婦人部の人々が中心となって展示用に整理し、各地で展示会が行われた。

また、ロラ・ロサの2度の来日の間には、他のロラとの交流もあった。1993年7月に、ロラの一人であるマリア・サンティリアンさんが、支援組織TFFCWのリサ・マサとともに来日し、京都・大阪で証言集会を持っており、その時に行われたALUI婦人部との交流会の写真もあわせて収録した。

ロラ・ロサ(中央)を迎えての集いで、笑顔のネリア・サンチョさん(左) 1992年12月12日



ロラ・ロサ(中央)とインダイ・サホール(左)。自立労連婦人部との交流会で 1992年12月12日



元フィリピン人「慰安婦」マリア・サンティリアンさんと自立労連婦人部の交流 1993年7月



座っているマリア・サンティリアンさん(右)と、TFFCWのリサ・マサ(左) 1993年7月

